



ようやく学校再開です！

北海道帯広三条高等学校長 合浦英則



4月1日より着任いたしました合浦英則（がっぼ ひでのり）と申します。新型コロナウイルス対応に追われる2ヶ月でした。生徒のいない学校は本当に寂しく活気のないものです。そのような中で、5月11日から3日間は年次ごとの分散登校を始め、18日からは全学年を2グループに分けて分散登校を実施し学校再開の準備をして参りました。そしてようやく6月1日から学校再開となったのです。

もちろん、新型コロナは完全に抑制されたわけではなく、教育を取り巻く状況は刻一刻と変化するため、今後どうなるかは予想が付きません。しかしながら、文科省や道教委の通知等で「学びの保障」に関する方向性について示されました。それによると教科等の学習の遅れを補うことを最優先として、当面の間は教科等の授業時数の確保に努めることが示されています。それに伴って、年間指導計画等の見直しなどの対応が求められ、生徒が密集して長時間行う学校祭や球技大会、見学旅行な

どの行事に関しては前期末（9月末）までは自粛するよう指示があったところです。今後新たな行事予定等をお知らせすることになりますが、感染防止の手立てを徹底した上で授業時数確保に努めてまいります。行事などの人間性を育てる大切な機会が十分与えられないことに様々な思いはあるかと存じますが、何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

さて、今年度は学校経営重点目標として「積極的な情報発信」を掲げました。今までも本校ホームページで年次や部活動に関して積極的な発信に心がけて参りましたが、今以上に本校の取組とそのねらい、そして生徒や教職員の頑張りや思いなどを伝えていきたいと考え、校長責任編集のもと学校だより「樹蔭静けく」を発行することにいたしました。今後とも、本校の教育活動についてご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

令和元年度進路実績

過去最高の国公立合格者数

昨年度卒業生の進路結果をお伝えします。11期生は新型コロナの影響があり、最後どうなるかと心配した部分もあったのですが、単位制になって以来、過去最高の国公立大学合格者を出すなど、それぞれの進路実現を見事果たしてくれました。佐藤明彦進路指導部長は、「担任の先生を中心とした3年間の積み重ねが結果となってあらわれました。この結果をしっかり分析し今後につなげていくようにしていきたいと思います。」と話しています。

今年度は新型コロナの影響で学校での授業がようやく始まったばかりです。いつまた学校が臨時休業になるかもしれないという先が見えない中での学習はとても辛いものがあると思いますが、与えられた課題をこなすだけでなく、なぜそうなるのかという本質的な理解を心がけてください。そして、何より大事なのは自分の将来を自ら創り上げていくのだという強い意志です。自分が学びたいこと、やりたいこと、就きたい職業・職種、ぼつとしたものでも構いません。まずは目標を定めてそこに進んでいくことが大切です。ご家庭におかれましてもぜひ進路について話し合っていたいただきたいと思います。

11期生合格者数

国立大学	66
公立大学	30
道内私立大学	195
道外私立大学	102
短期大学	21
高等看護専門学校	25
専門学校	20
公務員	7
民間就職	2
その他	16

第1回 11期生学年主任 松久芳男 教諭

常に自分をバージョンアップさせていく 姿勢を身につけてほしい！

◆11期生の生徒たちと担任団

私自身三条高校に赴任して2年目にいきなり学年主任を任されたので大丈夫かなと思ったのですが、生徒たちは素直で先生方の話をしっかり吸収してくれました。担任団の先生方も「高校生の本分は勉強すること」という姿勢で、現状に満足せずチャレンジしていこうと生徒たちをうまくリードしてくれました。新型コロナの影響で国公立大の2次試験が変更になったりと心配だったのですが、なんとか頑張ってくれました。ただ、卒業式も縮小したり、その後も新型コロナ対応でバタバタして新しい年度になってしまったので、3年間をやりきったという満足感とか安堵感とかを感じてないのが残念です(笑)。

◆学びの場を限定するな！

三条高校生に限ったことではないのかもしれませんが、何に対しても受け身の姿勢の子どもが多くなっている気がします。激しく移り変わる現代社会において今ある仕事が無くなっていくといわれていますが、新しくできる仕事もあるはず。その変化に対応していくためには常に自分をバージョンアップしていくことが必要です。その力を高校からつけさせたいと思っていますが、そのためには目の前の課題を与えられたからやるのではなく、自ら調べ、より深く考え、さ

らに広げていく姿勢が大事です。そうすれば学びたいこと、やりたいことが明確になります。11期生も自分のキャリアプランを立てる際に、大学調べ等で自己実現する方法を調べさせました。自分の学びの場や自己実現の場を十勝や北海道に限定せず、全国に求めていった結果が11期生の進学実績につながったものと考えています。

◆教員生活36年目、サッカー一筋!?

曾祖父が開拓に入ったのが清水町。私も清水で生まれ育ちました。上士幌、池田、帯広柏葉と十勝で勤務して、一度大麻高校に勤務した1年目だけサッカー部ではなく少林寺拳法部をもちました。その時にインターハイ出場(笑)。でもそれ以外はずっとサッカー部を指導してきました。改めてサッカーの魅力が最近わかってきました。今もシニアでプレーするのですが、だんだん技術の差は関係なくなっていくのです。ずっとサッカー指導をして生徒と一緒にやってきたお陰で今でも十分楽しめています。退職まで今年も含めてあと3年となりましたが、まだまだ頑張ります。



新型コロナ対策で ちょっと風景が変わりました

新型コロナ感染拡大防止策として、本校職員室内でしきりを設置しました。換気もできるよう公務補さんたちが工夫してくれたものです。あわせて教室の換気や校舎内のスイッチやドアノブ、手すり等の消毒を継続していきます。生徒の皆さんには引き続き、マスク着用、手洗いの励行をお願いします。なお、マスクを忘れてしまった場合は保健室に相談してください。



体育館に熱中症予防温湿度計設置

これから暑い時期を迎えますが、熱中症予防のために体育館に熱中症予防温湿度計を設置しました。熱中症を予防するためにはWBGT(環境温度を総合的に評価する指標)を測定して、暑熱の程度を知り、適切に対処する必要があるといわれていますが、この温湿度計はそれを計算して熱中症の注意目安が示されるものです。まだ体育や部活動等も本格的な活動とはいきませんが、熱中症に注意しながら一日も早く思いっきり体を動かせる日が来ることを望んでいます。



編集後記

学校通信のタイトルは校歌の歌詞から、そして先生方を紹介する『三条プリズム』はかつて発行されていた帯広三条高校新聞のコラム欄タイトル『プリズム』から頂戴しました。今後、学校が再開しそれぞれの場で頑張っている生徒の活躍なども紹介していきたいと思っています。(文責 校長)